

WEEKLY SIGNAL

平成31年4月12日(金) 1470号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	4/15(月)	4/16(火)	4/17(水)	4/18(木)	4/19(金)
無担保O/N			△0.086% ~ 0.001%		
銀行券	△700	トシ	トシ	△1,000	△1,000
財政他	+74,900	+1,000	△6,000	+4,000	+1,000
資金需給	+74,200	+1,000	△6,000	+3,000	トシ
主な要因	年金定時払い 国債償還(2Y) 国庫短期証券発行・償還(3M)		国債発行(20年)		
オペ期日	共通担保(全店) △1,800 国債補充供給 +100 CP等買入 △100				被災地支援 △1,300
オペスタート	共通担保(全店) +1,900 ETF買入 +400 国債買入 +10,400				
(日本)	若田部日銀副総裁、 東大・日銀共催会で挨拶		貿易収支(3月)		CPI(全国3月、18年度平均)
(海外)	米 シカゴ連銀総裁、講演 米 ボストン連銀総裁、講演	米 ダラス連銀総裁、講演 米 鉱工業生産(3月) 米 NAHB住宅市場指数(4月)	米 ファイデルフライ連銀総裁、講演 米 セントルイス連銀総裁、講演 米 ペーシュブック 米 貿易収支(2月) ユーロ圏 CPI(3月、改定値)	米 債券市場は午後2時までの 短縮取引 米 アトランタ連銀総裁、講演 米 小売売上高(3月) 米 新規失業保険申請件数 (13日終了週) 米 景気先行指標総合指数(3月) 米 ファイデルフライ連銀 製造業景況指数(4月)	米、欧州 祝日のため休場 米 住宅着工件数(3月)

[インターバンク市場]

<インターバンク>

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.045 ~ 0.020
SPOT 2M	△0.045 ~ 0.020
SPOT 3M	△0.030 ~ 0.030
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.100

日銀当座預金残高は週初、389兆6,700億円から始まった。その後は国債発行等の要因から若干減少し、388兆3,000億円を越えた。無担保コールON物は週を通して概ね横ばい圏で取引され、同加重平均金利は△0.064~△0.062%の狭いレンジで推移した。ターム物は、1~2W物で△0.05~△0.03%での出が見られた。日銀は8日発表した4月の地域経済報告(さくらレポート)で、東北と北陸、九州・沖縄の3地域で景気の総括判断を引き下げ、北海道の判断を引き上げた。来週の主な予定はCPI(19日)、海外ではページブック(17日)がある。

[オープン市場]

<C P>

CP3M(a-1+)	△0.010 ~ 0.000
TDB 3M	△0.25 ~ △0.15
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

今週の入札発行総額は約1兆300億円で、週間償還額(約3,300億円)に対し大幅な増加となった。発行市場は、5・10日発行と事業法人の大型案件が重なり、活況なマーケットであった。発行残高は、先週末の17兆8,219億円から順調に増加し、11日には約18兆500億円となった。発行レートは、投資家・ディーラー等の積極的な購入ニーズから、引き続き0%からマイナスでの出会いであった。CP等買入オベが、9日に1,500億円でオファーされた。結果は、按分落札レート△0.003%・平均レート0.001%と、前回(按分落札△0.002%・平均△0.001%)比で按分落札レートが低下、平均レートは上昇した。来週の償還総額(4/15~4/19)は、5,200億円程度となっている。発行市場は、5・10日発行が予定されているため、発行超を予想する。発行レートは、ディーラーや投資家の運用ニーズが引き続き強く、0%からマイナスレートでの出会いとなろう。

<TDB>

今週の国庫短期証券市場は、月末に10連休を控え堅調な地合い。9日入札の6M825回債は最高落札レート△0.1674%(前回債△0.1375%)、平均落札レート△0.1713%(同△0.1435%)。12日入札の3M826回債は最高落札レート△0.1861%(前回債△0.1400%)、平均落札レート△0.1984%(同△0.1444%)と大きく低下した。セカンダリー市場では3M物は△0.185%程度の出合となった。

<レポ>

銘柄先決めGC取引は週初△0.085%~△0.095%から始まり、週央にかけて同水準で推移した。12日受渡しでは△0.13%~△0.14%まで低下。積み最終日となる15日受け渡しは△0.12%~△0.15%近辺で取引された。SC取引では10年353回債のbidが多く、週初△0.10%台前半。国債買入オベがオファーされた11日受渡し以降、△0.10%台後半~△0.20%台前半の出合いが続いた。他2年397・398・399回債、5年136・137・138・139回債、10年338・339・340・341・342・343・344・345・346・347・348・349・350・351・352・354回債、20年164・165・166・167回債、30年59・60・61・62回債、40年10・11回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。